資料８－２

※中学校部分抜粋

A Collection of
Exemplary
Design of Elementary
and Lower Secondary
School Facilities

これからの小・中学校施設

小学校及び中学校施設整備指針の改訂を踏まえて

index

小学校及び中学校施設整備指針の改訂について ―― 1

この事例集で紹介する小・中学校施設の計画に見られる
今回の施設整備指針改訂のポイント ―― 2

【小学校】

1 千葉県流山市
流山市立小山小学校 ―― 5

2 東京都多摩市
多摩市立多摩第一小学校 ―― 9

3 兵庫県神戸市
神戸市立玉津第一小学校 ―― 13

4 富山県滑川市
滑川市立西部小学校 ―― 17

5 東京都武蔵野市
武蔵野市立大野田小学校 ―― 21

外国語活動のための充実した空間 ―― 25

【中学校】

1 新潟県長岡市
長岡市立東中学校 ―― 27

2 三重県熊野市
熊野市立有馬中学校 ―― 31

3 山口県下関市
下関市立豊北中学校 ―― 35

4 福井県福井市
福井市立至民中学校 ―― 39

5 千葉県山武郡横芝光町
横芝光町立横芝中学校 ―― 43

幼稚園、小学校及び中学校施設整備指針
改訂に係る事例集検討委員会委員名簿 ―― 47

文部科学省委託事業
幼稚園、小学校及び中学校施設整備指針改訂に係る事例集検討委員会

1

新潟県長岡市

長岡市立東中学校

■クラス数／ 12 クラス
■生徒数／ 419 名
■建築主／長岡市
■所在地／長岡市水道町 5-1-1
■敷地面積／ 34,030.00㎡
■建築面積／ 6,708.80㎡
■延床面積／ 10,959.00㎡（体育館 2,224㎡）
■構造・規模／ RC 造、一部 S 造、地上 3 階建
■施工期間／ 2007 年 7 月～ 2008 年 11 月
※クラス・生徒の数値は平成 22 年 3 月末現在

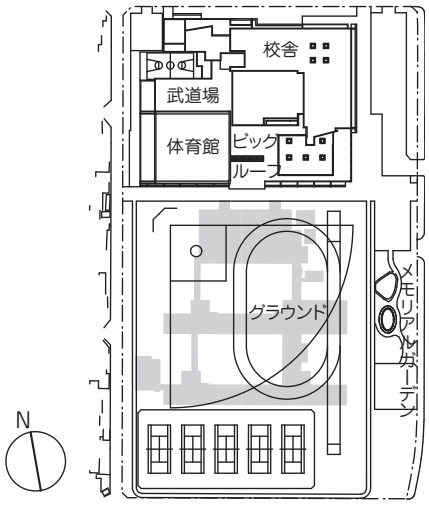
屋内体育施設と避難所機能を充実・融合。主体的な学習を支える環境づくり。

体育館と武道場を隣接。冬期でも動き回れる運動環境と災害時には避難所として使える施設を融合、教科教室や教科の広場と図書室・パソコン室の連携で多様な学習活動に対応。

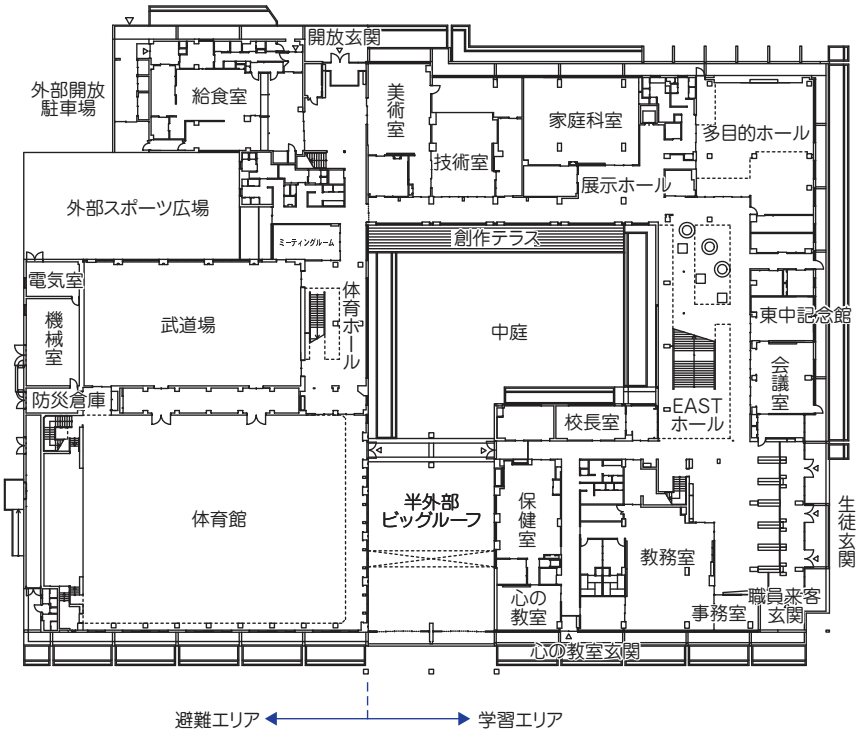
地域に開かれた場としての開放的な立面構成

計画に見られる指針改訂のポイント

1. 屋内運動施設での快適な環境づくり
2. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
3. 理数教育環境の充実



■配置図



■ 1 階平面図

屋内運動施設での快適な環境づくり
└避難所の視点から屋内運動施設を整備

1　雪や雨の日でも運動可能なビッグルーフ

2　体育館の2階にある周回ランニングコース

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└充実した武道場の整備

3　サブアリーナとしても利用される武道場

校長の視点から

中越地震の教訓を活かした屋内体育施設の整備

体育館を計画するにあたって考えられたのが防災施設機能の充実でした。中越地震で避難所としての利用経験があったのでその教訓を活かし、体育館と武道場を近くに配置し、給食室も設置しました。避難所として使う場合、大きな空間が2つあることは、状況に応じて利用形態が変えられるので大変助かります。緊急時の出入りや救援物資の仕分けスペースとなる大屋根のかかった半外部空間（ビッグルーフ）は、常時は全天候型の屋内運動施設として、雨天時や積雪時にも毎日走り回ったり、様々な運動に使ったりできるので、運動能力の向上に役立ちます。（写真1、3）

体力向上に有効なランニングコースの整備

体育館の2階には一周約140mのランニングコースが整備され、陸上、野球、テニスなどの屋外部活動に有効に活用されています。

床は、クッション性に優れた素材が用いられており、膝への負担も少なく、安全面にも配慮され、体力向上に有効に活用されています。（写真2）

柔道等を日常的に行える環境

柔道場の畳は常設され、生徒はわざわざ畳を運ぶことがなく、緩んで指を鋏む心配もありません。準備運動も素早く行え、柔道本来の練習に一生懸命取り組めます。剣道場は、剣道を行わない時には、サブアリーナとして卓球など他のスポーツにも利用することができ、生徒も喜んでいます。（写真3）

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└図書館と教科の広場を中心に充実した学習環境

4 吹き抜けのある開放的な図書館

5 教科の広場に設置されたノートパソコン

6 英語の広場では、図書室とも連携して教科関連の様々な資料を用意

7 クラスへの帰属感を生み学校生活の拠点となるホームベース

教職員の視点から

教科センター方式により学習意欲を向上

教科センター方式のため、生徒は次の教科教室に移動して授業を受けます。各教科教室の机は自分専用でないため、公共心が身についてきました。国語、社会、数学、英語が教科の教室をもち、各教科に隣接してメディアスペース（教科の広場）があります。また学級のまとまりを大切にするため、ホームベースが設けられています。

ホームベースでは、クラスの生徒が一緒になって活動を行い、学校のこと、学習内容や部活動、趣味や遊びなど、多彩な話題が語られています。教科センター方式になって、「学習意欲が増した」「教科教室は集中できる」という生徒の声や、一番好きな場所は「ホームベース」という意見が聞かれるなど喜ばしい結果になりました。（写真５～７）

手近に情報検索でき、理科実験の行いやすい環境

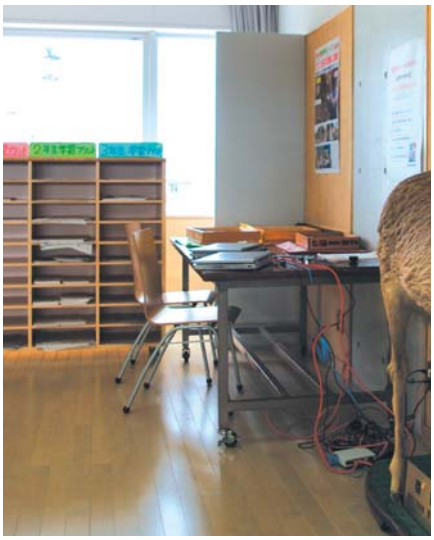
各教科の広場には２台ずつ（5 教科で10 台）のノートパソコンを用意し、パソコン室と併用しています。生徒も教職員も学習に関する情報検索が手軽に行えます。理科の授業の充実のために、理科講義室の他に２つの理科実験室を設け、その近くに実験を行いやすくするために理科準備室を整えています。理科の広場は、休憩時間に教材や教具に触れられるようにし、また、実験成果の展示を行うなど生徒の関心や興味を集めるようにしています。（写真８～12）

理数教育環境の充実
└観察・実験が十分な準備のもとに行える理科教室

8　理科の広場、教師・教材コーナー

9　理科実験室

10　理科準備室



11　理科の広場にパソコンや理科教材を用意

12　理科の広場と開放的な理科教室

〈設計者の視点から〉

◎新潟県中越地震の教訓を活かし、地域住民の避難所としての機能を強化することを目指しました。避難所の核としての体育館、武道場、給食室、ランニングコース、半屋外のビッグルーフなどをまとめ、グラウンドに面して配置しています。（写真１～３）

◎半外部のビックルーフ、周回ランニングコースは冬でも活動できる雪国の大切な運動スペースとなり、それらを含む体育施設などの避難所エリアと学校開放エリアを重ね合わせ、生徒たちの日常生活や学習活動と避難所や地域利用を両立させています。（写真１、２）

◎教科教室、教科の広場、教師コーナーを教科センターとしてクラスター状にまとめました。また、メディアセンターと移動の核となる大階段を建物の中心に配置しています。この吹き抜け空間を拠り所として、生徒たちはホームベースから各教科センターへ移動し、活発な学校生活を展開します。（写真４～12）

（設計／惟建築計画＋長建設計事務所）

検討委員会委員の視点から

屋内運動施設での快適な環境づくりの観点から

冬場の雪など天候を気にすることなく運動できる屋内ランニングコースや半屋外運動スペース（ビッグルーフ）を設けるなど、運動環境を充実させた計画となっている。

武道場は畳空間と板の間の空間が別々に確保されており、柔道や剣道などの武道が安全に、また、円滑に実施できる施設環境となっている。

2

三重県熊野市

熊野市立有馬中学校

■クラス数／9クラス
■生徒数／244名
■建築主／熊野市
■所在地／熊野市有馬町1398
■敷地面積／15,562㎡
■建築面積／4,097㎡
■延床面積／5,171㎡（体育館1,074㎡）
■構造・規模／RC造 校舎棟 地上3階建
RS造 体育館 地上1階建
■施工期間／2003年7月～2005年3月
※クラス・生徒の数値は平成22年3月末現在

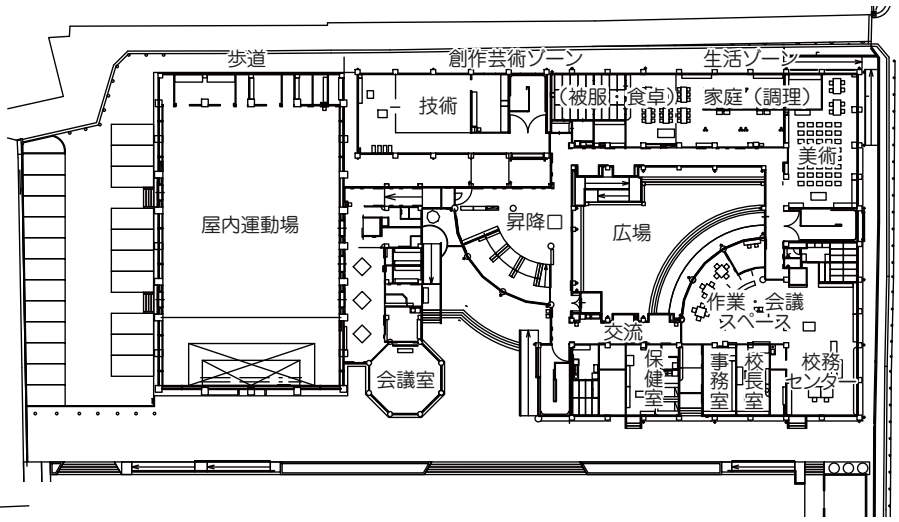
熊野杉に包み込まれ、環境教育を実践。情報環境の充実で世界へとつながる。

室内にふんだんに使われた熊野杉。自然の大切さを学び、自然エネルギーの利用で環境教育を行う。インターネットを使い、外国と連携した学習も。

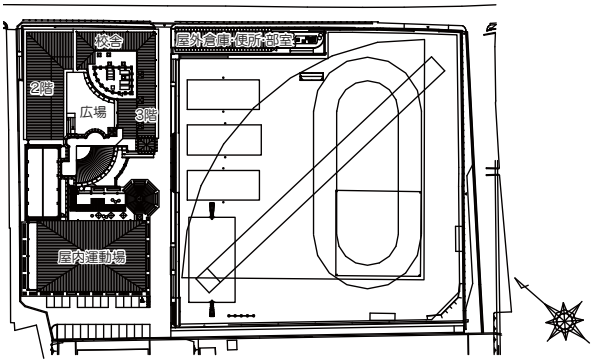
日照調整の庇・ルーバー等、環境に配慮したデザイン

計画に見られる指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 情報環境の充実
3. 環境面からの持続可能性への配慮



■1階平面図

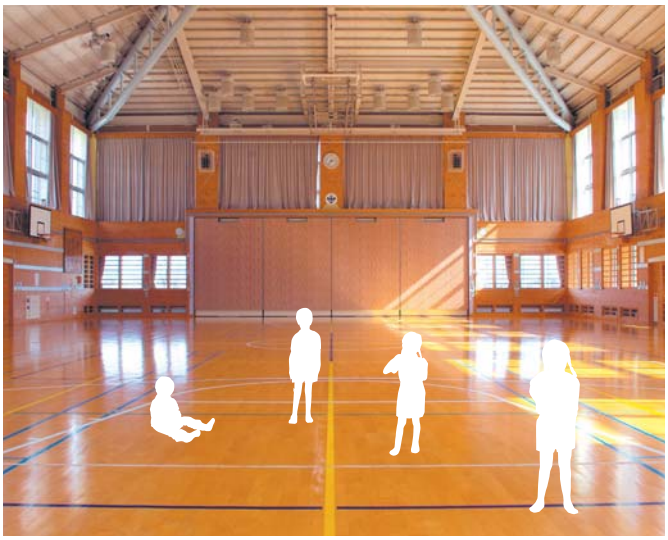


■配置図

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└熊野杉をふんだんに使った校舎・体育館

1　天井と壁面、照明器具に熊野杉を使用した音楽室

2　あたたかみのあるトイレの手洗い場



3　自然光で明るい熊野杉を使用した屋内運動場

情報環境の充実
└図書館と連携するコンピュータ室

4　海外との交流等が行われるコンピュータ室

校長の視点から

生徒を癒し、落ち着かせる熊野杉を使用した校舎

校舎内は、地元・熊野産の杉の無垢材で仕上げられ、やさしい表情を醸し出しています。そのぬくもりが生徒たちの心を癒し、落ち着かせているようで、この校舎になってから、生徒たちの表情が柔和になったように思います。特に音楽室では、音の響きが格段に柔らかくなったようで、生徒たちも音楽の授業に積極的になりました。（写真 1 ～ 3）

トイレも生徒たちの快適なふれあい空間

熊野杉はトイレにも使われ、トップライトから降り注ぐ明るい自然光や、無垢材と鮮やかなコントラストをつくるブルーのパネルとともに、いままでのトイレのイメージを劇的に変えています。そのモダンで清潔感あふれる空間は生徒たちにも居心地がいいようで、ぐるりと回れる手洗いカウンターでは、友だち同士のおしゃべりも弾んでます。（写真 2）

整備されたネット環境で交際交流も促進

市長の方針もあり、情報教育には力が注がれています。平成 12 年には市内の全小中学校がイントラネットで結ばれました。本校でも、図書館に隣接してコンピュータ室があり、本を見ながら調べものができる環境が整っています。また年 3 回、希望者 20 名を募って行う、インターネットでの米国の大学生との英語交流は、貴重な学習機会となっています。（写真 4）

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└木のぬくもりが生徒にゆとりを与える図書館

5 落ち着きのある図書館

6 和みを生む図書館の畳スペース

7 屋外でも読書が楽しめる屋上テラス

8 採光豊かな会議室

教職員の視点から

生徒たちの“心のゆとり”を生み出す空間

子どもたちにはいつも「自分の持ち物と他人の権利を大事にしなさい」と指導しています。その基本となるのは、自分を顧み、仲間を思いやる“心のゆとり”だと考えています。そこで、“心のゆとり”を生み出すために、いくつかの工夫をしました。工夫の第一は、毎朝のホームルームでの10分間の読書です。施設の環境もそれにふさわしく、校舎全体に熊野杉を用い、あたたかな雰囲気のある空間を生み出しています。本とじっくり接することができるよう、図書館にはベンチや畳スペースを設けています。明るい会議室やあたたかな気持ちの良い日には屋外でも読書ができるように緑化された屋上テラスもあり、様々な読書環境が用意されています。本としっかり向き合う時間をもつことで、生徒の心に落ち着き＝ゆとりが育まれています。（写真5～8）

太陽光発電や光のコントロールで環境への関心を喚起する工夫

環境教育に資するため生徒の目につきやすい場所に様々な工夫を凝らしています。トイレのトップライトは照明が無くても明るく、直射で温度上昇が懸念させる教室にはルーバーを設置、屋上テラスの緑化や太陽光パネルも設置しています。また、発電モニターを昇降口付近に設置することで生徒たちの環境への関心を高めています。（写真9～12）

環境面からの持続可能性への配慮
└環境共生への気づきを生む様々な工夫

9　屋上に設置された太陽光パネル

10　太陽光による発電量を生徒に伝えるモニター

11　室内の温度上昇を防ぐルーバー

12　トップライトにより自然光で明るいトイレ

〈設計者の視点から〉

◎熊野杉の持ち味を活かしながら、モダンな空間として仕上げていくことに注力しました。自然光の活用や明るい色調のパネルとのダイナミックな対比はその一例です。（写真1、3、5、6）

◎トイレは、熊野杉のあたたかみと清潔感を活かしながら、機能的な回遊動線を備えた斬新な空間に仕上げています。（写真2）

◎コンピュータ室には、勉強会ができるスペースを確保しました。（写真4）

（設計／内藤建築事務所）

検討委員会委員の視点から

環境面からの持続可能性への配慮の観点から

校舎や体育館には、地元の熊野杉をふんだんに利用し、落ち着きのある、また、あたたかみのある空間を実現している。また、自然光をできる限り取り入れる工夫がされているなど、環境負荷の低減や自然との共生等を考慮した施設づくりとなっている。

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供の観点から

図書室にベンチや畳スペースを設けたり、隣接してコンピュータ室を配置したりするなど、図書とじっくり接することができる空間や調べ学習が行いやすい空間を確保している。図書室の積極的な利用を促す計画になっているといえる。

3

山口県下関市

下関市立豊北中学校

■クラス数／ 10 クラス
■生徒数／ 245 名
■建築主／下関市
■所在地／下関市豊北町大字滝部 1244-36
■敷地面積／ 39,851㎡
■建築面積／ 8,545.55㎡
■延床面積／ 10,372㎡（体育館 1,321㎡）
■構造・規模／鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
地上 2 階建
■施工期間／平成 16 年 10 月～平成 17 年 12 月
※クラス・生徒の数値は平成 22 年 3 月末現在

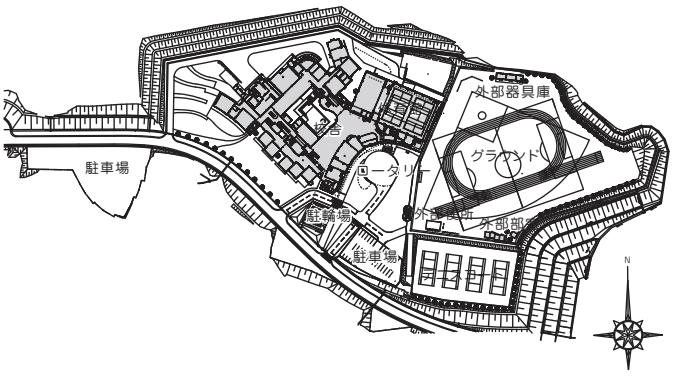
学校の中心に地域図書室。学校が地域の交流と学習･運動活動の拠点に。

学校図書室と地域図書室を一体にして学校の中心に。学校全体が地域の交流活動の拠点となり、地域の文化・歴史を継承する場となる。教科センター方式の導入で自己学習の意欲を高め、随所に設けたオープンスペースが交流の場に。

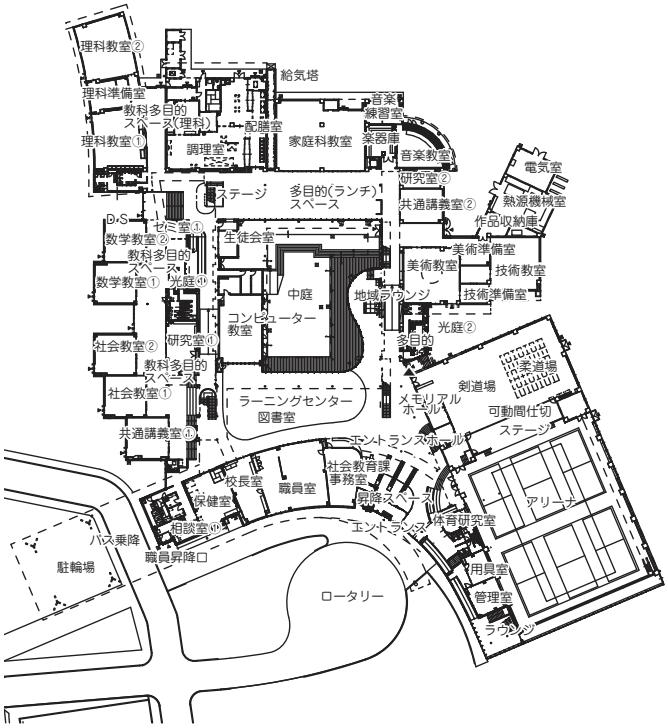
敷地レベルを生かした施設配置

計画に見られる指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 家庭・地域と連携した施設の充実
3. 環境面からの持続可能性への配慮



■配置図



■ 1 階平面図

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└生徒・教師の交流を促すための空間が随所に

1　発表やグループ学習など多様な機能をもつ教科多目的スペースの階段状スペース

2　教科教室前の教科多目的スペース(オープンスペース)

3　ホームベース前の廊下

4　ランチルームともなる多目的スペース

校長の視点から

教科センター方式の導入に伴う移動空間の工夫

高度で専門的な授業を展開するために教科センター方式を導入し、その効果を高めるためにラーニングセンター・図書室、校務、教科教室、特別教室、ホームベースの５つのゾーニングにより空間の目的を明確化しています。生徒たちは登校するとまず２階のホームベースへ向かい、ホームルーム後、それぞれの授業プログラムを確認して各教室へ移動します。

教師たちも職員室での朝礼の後、各研究室で授業の準備を行い各教室へ移動していきます。生徒は教科教室に近づく間に集中力を高め、学習意欲を向上させています。開放感のあるホームベースや階段、オープンスペースでは日常的なふれあいのある心地よい居場所をつくりだし、これによって学習意欲の向上を実現しています。
(写真１～４)

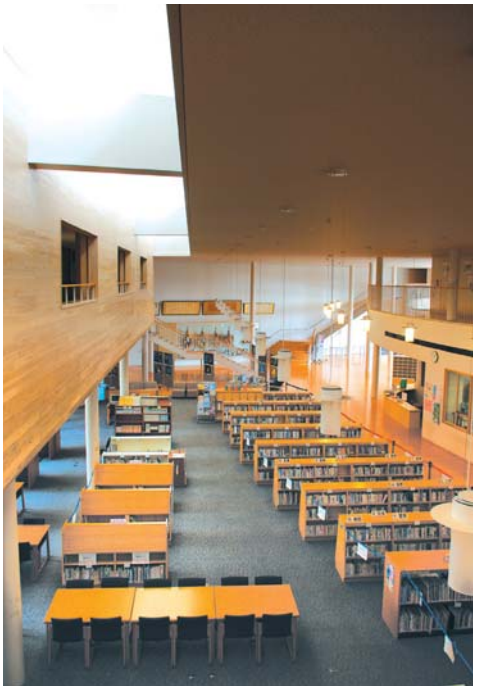
教職員の視点から

生徒同士、生徒と教師の交流を促す、多様な学習空間

階段状のオープンスペースは、グループ学習や発表の場であると同時に、生徒たちの交流の場でもあります。教科ごとに使えるオープンスペースは、小グループでの作業や調べ学習に適しています。このような変化に富んだ施設によって、多様な学習活動が促されるとともに、生徒同士はもちろん、生徒と私たち教師との交流も活発化しています。(写真１、２)

家庭・地域と連携した施設の充実
└保護者や地域住民の交流の場を計画

5　地域に開放される音楽室



6　地域交流の場となる図書室

7　図書室に併設されたラウンジ

地域全体で生徒たちを見守る取り組み

図書室は市が管理しています。学校が地域との接点になるよう図書室にはラウンジが併設されています。体育館・音楽室・美術室・技術室・家庭科室は地域開放ゾーンにまとめられ、音楽のレッスン、バレーボール大会などに開放されています。こうした交流により、地域全体で生徒を見守り育てていくという意識が高まり、心強く感じています。（写真５～７）

ふるさとの教育環境を活かした外部講師の活用

地域には、私たち教師にはない専門性をもった方たちがたくさんおられます。それを大切な教育資産と捉え、さまざまな人材を外部講師として招いています。開放空間や剣道場、アリーナなど外部講師からの学びの場となる施設は、外部から利用しやすいよう、エントランス近くに配置されています。（写真５～７）

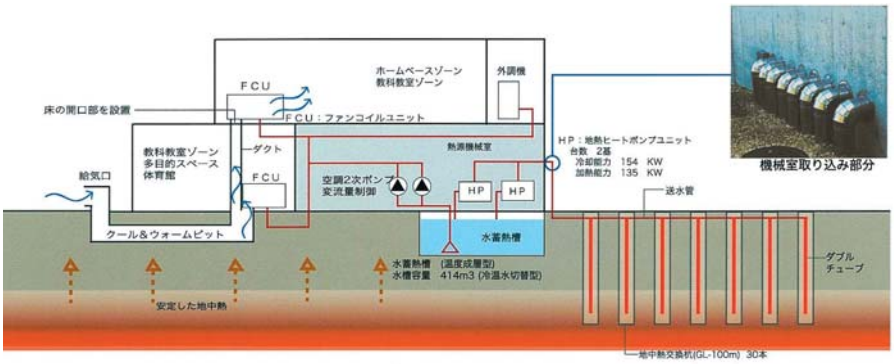
〈設計者の視点から〉

◎「地球環境と共生するエコスクール」を具現化することを目的として、省エネルギー・省資源をめざすとともに、維持管理費の低減も視野に入れ設計しています。中庭と校舎の位置関係は採光や通風を考慮した配置とし、図書室にはハイサイドライトを取入れ、地域との交流の場となる施設の窓は開放感のある大きなガラス面を採用しています。（写真５～９）

環境面からの持続可能性への配慮
└クリーンエネルギー導入による温室効果ガスの発生の抑制

8　採光･通風を確保する中庭

9　美術室のトップライト



10　地熱ヒートポンプシステム

11　クール&ウォームピット吹き出し口

12 太陽光発電システム

13　太陽光発電モニター

◎豊北町有林の杉やヒノキを積極的に利用して、建築資材の輸送に伴うエネルギーと温室効果ガス排出量の削減にも配慮しました。
（写真 6、7、9）
◎設備面では、太陽光発電システム、クール＆ウォームピットなどを採用し、その他にも氷蓄熱空調や節水、省電力照明機材などを導入して省エネルギー環境を整えています。
（写真 10 ～ 13）

（設計／日本設計）

検討委員会委員の視点から

家庭・地域と連携した施設の充実の観点から

生徒の交流の場にもなる多機能な階段状の空間を整備したり、図書室に併設してラウンジを設けたり、また、エントランスホールに図書室を設けるなど、生徒同士、地域住民等との交流を促進するための環境が充実している。

環境面からの持続可能性への配慮の観点から

採光・通風を確保するために中庭を設け、ハイサイドライトやクール＆ウォームピット、太陽光発電システムの導入など、環境負荷の低減や自然との共生等を考慮した施設づくりとなっている。

4

福井県福井市

福井市立至民中学校

■クラス数／ 14 クラス
■生徒数／ 412 名
■建築主／福井市
■所在地／福井県福井市南江守町65-20
■敷地面積／約33,000㎡
■建築面積／ 11,149㎡
■延床面積／ 11,135㎡（体育館2,720㎡）
■構造・規模／ RC　地上２階建
■施工期間／ 2006年10月～ 2008年２月
※クラス・生徒の数値は平成 22 年３月末現在

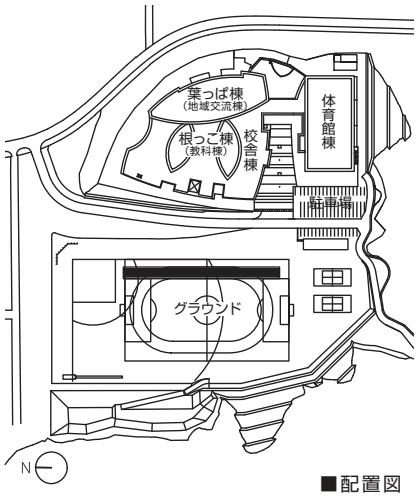
学年を超えた交流、学び合い 教え合う環境が生徒を育てる

世代継承をコンセプトに、上級生が下級生の模範となる交流の場を作り、教科センター方式の学びやすい環境を整備、学びのサイクルの好循環を生み出す。

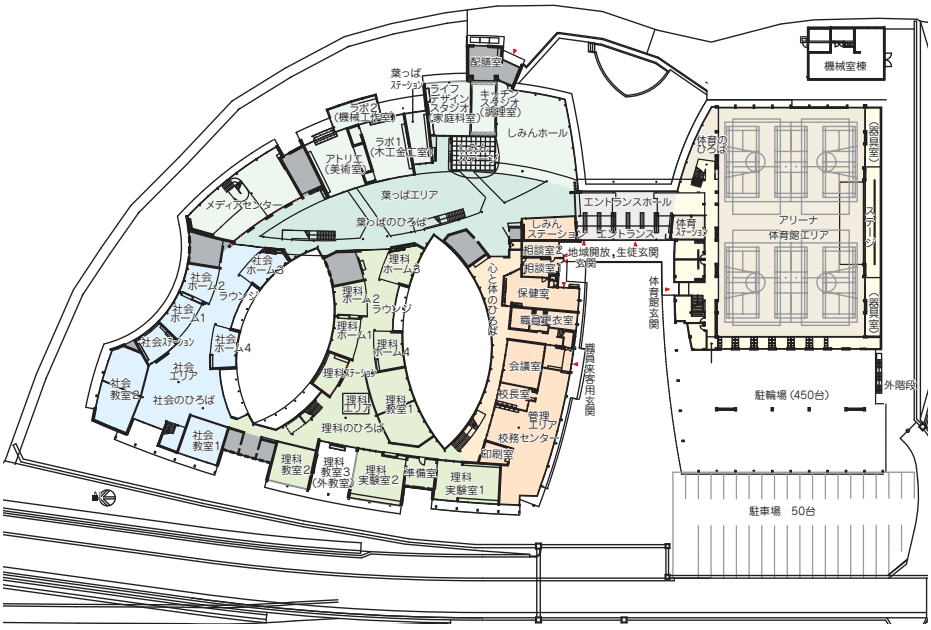
空間と連続した中庭

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 理数教育環境の充実
3. 家庭・地域と連携した施設の充実



■配置図



■１階平面図

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└先輩と後輩、教師と生徒の“壁”も取り払うオープンスペース

1　異学年が集うホームベース

2　英語ひろばで教師と話し合う生徒

3　ホームベースの中心にある交流の場「ラウンジ」

校長の視点から

学年を超えた協力を生む、開放感のあるホームベースの配置

本校では、教科センター方式を導入していますが、各学級の朝の会、帰りの会、給食などを行うホームベースの配置に特色があります。各学年１学級ずつのホームベースを集めて異学年のまとまりをつくり、これをクラスターと呼んでいます。合唱コンクールやマラソン大会などの学校行事では、クラスター単位で活動することがあります。（写真 1）

教科エリアごとの特色を生む施設配置

各教科エリアでは、教科ごとに特色ある運営がなされ、生徒の学習意欲が高まるように、教科の教材や作品を用意しています。教科エリアには教科ステーションがあり、そこには教科専任の教師が常駐し、生徒は気軽に質問や相談に訪れます。これにより、学びのサイクルの好循環が生み出され、学習成果も高まっています。（写真 3）

教科ごとの交流を深め、学習に活かす「教科のひろば」

教科ごとに配置されたのが、オープンスペース「教科のひろば」です。教科の授業は、教室と廊下の仕切りをオープンにして、「教科のひろば」に出て授業することもあります。他の学年やクラスターの生徒が刺激を受けたり、お互いが見たり見られたりすることで教科研究が深まるという効果が生まれています。（写真 2）

理数教育の充実のための施設
└充実した観察・実験のための理科教室の計画

4　実験観察器具を取り揃えた理科のひろば

5　屋外実験に利用される屋外理科教室

6　開放的な理科教室

7　先生との交流を深める理科ステーション

教職員の視点から

理科への関心を深めるための実践的な施設配置

理論上の考察と事実を見極めるための実証実験、時間軸を長めにとった観察を行うスペースなど、理科教育のために２つずつの理科教室と理科実験室のほか、屋外理科教室を配置しています。さらに窪地を利用した畑スペースでは植物を育て観察しています。屋内の教室ではできない授業が、生徒たちの理科への関心と興味を喚起するのに役立っています。（写真４～７）

生徒と地域住民が交流する「葉っぱエリア」

アプローチ空間と連続したアリーナは、地域の社会体育活動に開放されています。また、「葉っぱエリア」には、アトリエ、ラボ、ライフデザインスタジオ、キッチンスタジオなどに加え、展覧会ができる広場があり、地域開放ゾーンとなっています。「葉っぱエリア」では、地域住民や近隣の高校生･大学生の展覧会や鑑賞会、講習会などが催され、生徒たちは大いに啓発されています。（写真８～10）

〈設計者の視点から〉

◎未来を見据えた学びのあり方をテーマに、大小に可変する連続教室、掲示板やホワイトボードになる間仕切り、多様な掲示・展示に対応する壁・天井などを工夫しています。
（写真１、２、３）

◎異学年型クラスターを中心とした多様な協働活動を可能にする空間構成として、４つのホーム空間をオープンスペースのまわりに配置し、教科エリアや地域開放ゾーンへゆるやかに連続させています。
（写真１～７）

家庭・地域と連携した施設の充実
└地域の暮らしや文化活動に開放された空間を計画

8　葉っぱホール(音楽室)で講習会を行う市民

9　葉っぱエリアの吹き抜け空間

10　アプローチ空間に面し、地域に開放されるアリーナ

11　地域にもよく使われるしみんホール

◎計画時には、生徒・教職員・地域に分かれたワークショップを実施しました。このワークショップから生まれた、学校が地域のコミュニティセンターの役割を果たすとの考えを考慮し、エントランスの近くの「葉っぱエリア」には地域交流のためのしみんホール、しみんステーションや体育館であるアリーナを配置しています。(写真 8 ～ 11)

(設計／設計工房顕塾)

検討委員会委員の視点から

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供の観点から

各教科でのグループ活動や異学年集団による活動など多様な学習活動に対応したオープンスペースが確保されている。

理数教育の充実のための施設の観点から

生徒の理科への学習意欲を高めるため、理科ひろばや理科外教室、畑スペース等を整備するなど実験、観察等が実施しやすい空間を充実させている。

家庭・地域等と連携した施設の充実の観点から

アプローチ空間と連続した位置にアリーナを配置し、玄関に近い位置にアトリエ・キッチンスタジオ、ホール等を一体的に整備した地域交流のための葉っぱエリアを配置するなど、生徒と地域住民等との交流空間が訪問者の利便性に配慮し計画されている。

5

千葉県山武郡

横芝光町立横芝中学校

■クラス数／ 14 クラス
■生徒数／ 410 名
■建築主／横芝光町
■所在地／千葉県山武郡横芝光町坂田池 3 番地 1
■敷地面積／ 38,709㎡
■建築面積／ 2,612㎡
■延床面積／ 10,416㎡（体育館 3,636㎡）
■構造・規模／ RC 造一部鉄骨造
地上 3 階建
■施工期間／ 2007 年 10 月～ 2009 年 2 月
※クラス・生徒の数値は平成 22 年 3 月末現在

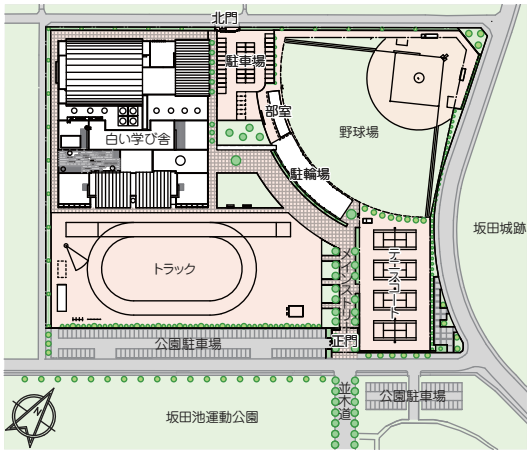
大小さまざまな空間における多様な学習活動の展開。

3 つの大空間を多目的に利用。木材を使用した落ち着きのある環境。少人数学習やカウンセリングに使われる小空間の配置。使いやすい環境が学習効果をあげる。

のどかな風景の中に緑と白のコントラストが映える校舎

計画に見られる指針改訂のポイント

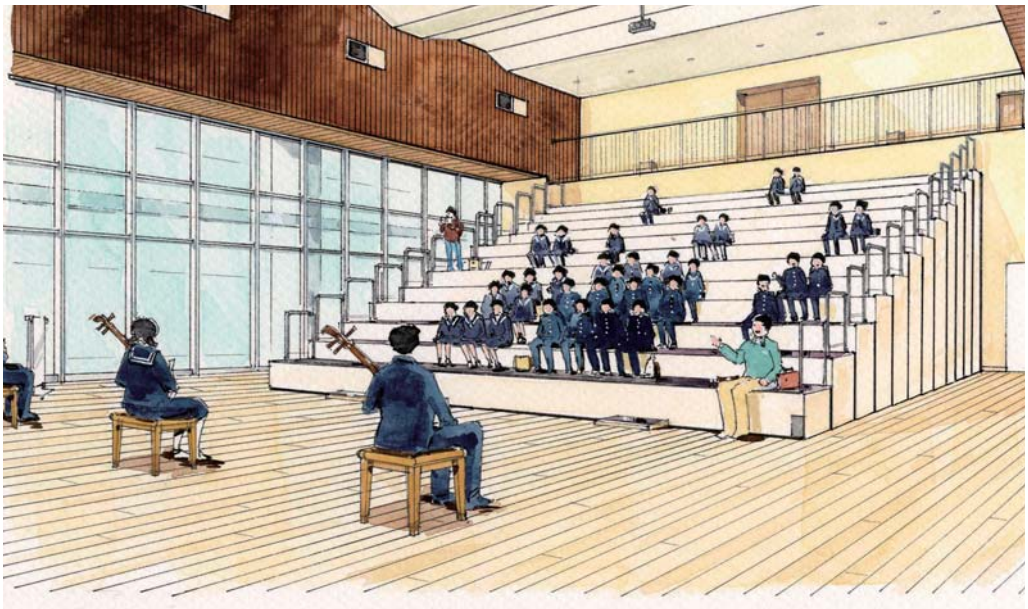
1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 家庭・地域と連携した施設の充実



■配置図

■ 1 階平面図

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└大小さまざまな空間が多様な活動を生み出す



1　移動観覧席のある視聴覚室

3　各学年に設置されたミーティングルーム

2　体育館としての機能を高めるため、内装･設備の整った講堂

4　少人数学習を行う小空間

校長の視点から

移動観覧席で ひとつの空間を柔軟に活用

視聴覚室には、電動式移動観覧席を備えています。これは、視聴覚室を学年集会の他、学習発表会、PTA 部会、研究会、講演会、映写会、さらには ICT を活用した学習空間としてフレキシブルに活用するためのものです。この移動観覧席により、空間の用途が大きく広がりました。（図 1）

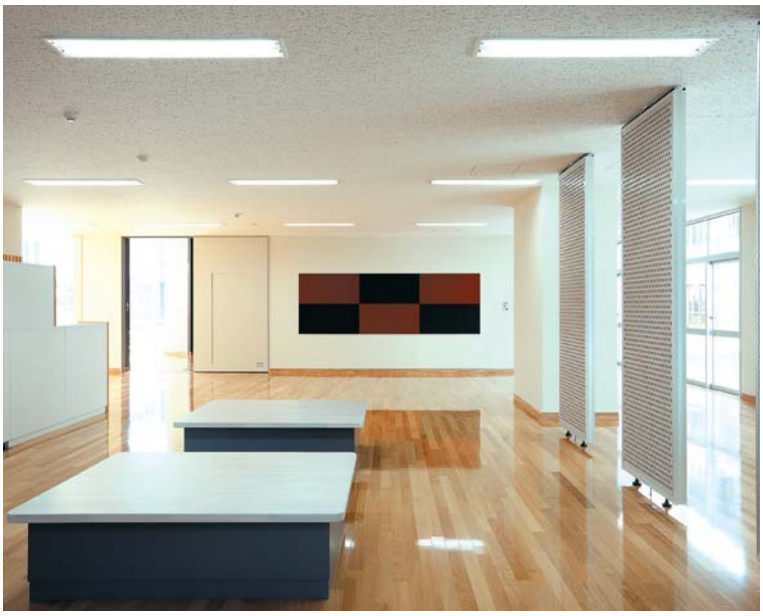
幅広い学習活動を支える 多目的スペース

隣接する運動公園との連携を考え、地域の活動の場としても使える大きな空間を配置しています。視聴覚室・講堂・武道場の大空間は、それぞれが独自の用途をもちながら、3 つの学年が学年集会を同時に開けるスペースとしても機能します。このような多目的空間が、多様な学習活動の展開に大いに役立っています。（写真 2）

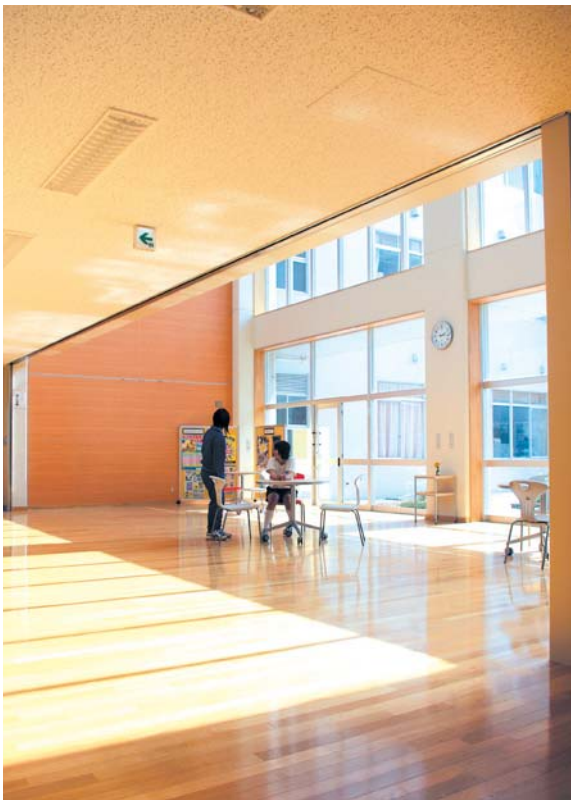
学習の多様性を確保する 多様な小空間

各学年にはミーティングルームが設置され面接や個別学習、個人指導の部屋等としての機能を果たしています。また、少人数学習室も、各学年ごとに 2 室設けています。さらに、教師の工夫による魅力的な展示ができるよう、展示･掲示スペースを充実させるなど、多様性に富んだ空間で学習効果を高めています。（写真 3、4）

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└生徒の交流を促すための空間をきめ細かく配置



5　ラウンジは地域とのふれあいの場



6　交流の場となる昇降口前の多目的ホール

7　放課後、オープンスペースで合唱の練習

8　トイレ前に設置されたベンチ

教職員の視点から

学校生活を魅力的にするスポット

大きなベンチを 2 つデザインした昇降口脇のラウンジは、登下校時の待ち合わせや地域の人たちとのふれあいの場になっています。ベンチやお洒落な手洗い場のあるトイレは、生徒たちのおしゃべりの場にもなっています。生徒たちが自然に集い、気持ちよく過ごせる場所が校舎に点在していることで、学校生活の魅力が高まっているようです。（写真 5 ～ 8）

大空の下でのひのびと音楽活動

文化活動や学習成果など成果を発表する場は大切です。音楽室は音楽の学習･練習の場ですが、本校では講堂や視聴覚室にもピアノを設置し、そこでも音楽の練習が行えます。教科ごとの学習内容や形態の違いはあっても、その成果を発表する舞台は特別な環境を設える必要があると考え、音楽室の外には野外ステージも設置し、教科を超えた発表の場としています。（写真9）

親子のコミュニケーションを円滑にする取り組み

生徒のカウンセリングと保護者の相談を有機的に結びつけ、よりきめ細かな指導ができるよう、カウンセリング室と相談室を隣り合わせで配置しています。学校と生徒や保護者、そして親子のコミュニケーションが今まで以上に円滑に図れます。生徒の精神的な安定も得られ、落ち着きや安心して登校できる環境が整備されています。（写真 11、12）

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
└特別教室の個性的な整備

9　音楽室から続く屋外ステージ

10　和楽器の収納棚

家庭・地域と連携した施設の充実
└カウンセリングに適した雰囲気のある空間

11　生徒用カウンセリング室

12　保護者用相談室

〈設計者の視点から〉

◎開放感にあふれる広い空間と、明るい色彩を取入れた小空間を併設することで、目的に合わせた多様な利用が可能となる空間配置としています。（図 1、写真 2、3、11、12）

◎校舎内を明るく開放感ある空間に仕上げています。また、多目的ホールのテーブルやトイレ前のベンチなど、交流の場を設けることで地域とのつながりを重視した施設としています。（写真 5 ～ 8）

（設計／豊建築事務所）

検討委員会委員の視点から

多様な学習活動が可能となる環境の整備の観点から

学年集会や学習発表会などを行う大空間として電動式移動観覧席を備えた視聴覚教室を設け、各学年に個別学習、面接等に利用できるミーティングルームや少人数学習室等の小空間を整備するなど多様な学習内容に対応できる計画となっている。昇降口前にホールを設けたり、トイレ前にベンチを設置したりするなど、生徒が自然に集まり交流できる空間が充実している。